シンポジウム記録 水産学・農学分野におけるエンジニアリング・デザイン教育

4. 造園系プログラムにおける事例紹介

高橋新平

東京農業大学地域環境科学部

A case in an education program in the field
of gardening engineering

SHINPEI TAKAHASHI

Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University
of Agriculture, Setagaya, Tokyo 156-8502, Japan

1. 教育理念と人材育成の目標

東京農業大学地域環境科学部は、生物に対する深い理解を基調とし、自然と人間の調和ある地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための科学技術を確立することを目指している。また、ミクロな地域環境問題の解決はもとより、さらにグローバルな地域環境問題の解決にも貢献できる人材を養成することを目指している。本学科は1956年（昭31）に設置された農学部造園学科を発展的に移行させた新しいビジョン「造園学（Landscape Architecture）」を持つ学科であり、社会的認識はこの50年間に於いて需要絶対量の増大や多様化に伴って顕著に変化し、造園技術者に求められる職能の多岐・多様化をもたらした。造園は空間を創る「術」に特徴を持つ分野で、庭園主流の時代から公共的環境空間整備が求められる時代、また地域環境にアプローチすることを通じて地球環境問題の解決をも目指す時代に移行してきた。このような「術」を支える「学術基盤」の重要性が以前よりも増した。従って、現在は教育の手法改革を進めて、庭園文化を踏まえ、人間と自然の調和する共生社会の実現を目指し、都市から田園、自然地域にいたる国土の環境と景観を保全・利用し創造するための、調査・計画・設計・施工・管理・運営及び自然の構成要素に関する理論と応用を教授し、豊かな感性と表現力、確かな倫理観を持つ造園家、造園技術者の養成を行っている。具体的には、1) 植物に代表される自然要素とそれらが作りあげるシステム、つまり生態系とそれを構成するものに対する知識を持ち、自然環境の保全と育成に科学的かつ実践的に対応できる技術をそなえた人材…環境行政・緑化行政担当の技術者、自然保全、生物資源調査、自然復元・緑化コンサルタントの技術者などの育成（ランドスケープ資源・植物分野）。2) 建築、土木、アートなど隣接分野の専門家との協働ができ、環境創造に取り組むために必要な感性と知識をもち、新たな環境の創成を計画的、デザイン的に遂行できる人材…都市計画・

公園緑地計画者、環境計画コンサルタント、ランドスケープデザイナーの技術者などの育成（環境計画・設計分野）。3) 人間の生活環境を秩序施設や空間を創世する先鋭化された技術と実践力を有し、自然環境の利活用を生態技術的、環境芸術的に処理する人材…建設産業分野の造園技術者、造園材料及び資材生産の専門家等の育成（景観建設・技術分野）である。

2. カリキュラムにみる造園系デザイン教育

2-1. 造園科学科カリキュラムの特徴

造園科学科の「専門教育科目」は、「環境計画・設計分野」、「ランドスケープ資源・植物分野」、「景観建設・技術分野」の3分野の専門科目を基幹として、分野横断的な基礎科目と総合化の科目で構成し、「ランドスケープ空間と手法の知識教育」を実施している。大学の実学主義の精神を踏まえ、総合化の科目に位置付けられる「造園総合演習」、「専門特化演習」等の科目が1年次から4年次配当され「総合と自身づけ」をねらいとした教育を進めている。

2-2. 演習・実習科目における造園系デザイン教育

演習と実習科目は講義科目と密接な関連性を保ちながら学年進行することの特徴としている。これらの科目では専門分野の担当教員が複数で関わり、演習・実習の進行内容に連動して専門分野の立場から指導している。これら多くの科目は講義科目と並行しているが、状況によって講義科目に先行して演習・実施を行う場合がある。演習・実習で具体的な課題をあらかじめ経験した後で講義を受ける意義がある、と合意されたときなどに時間割を変更している。演習・実習科目の具体的内容構成は、1) 動機づけを目的とし造園への関心を高める（広める）段階、2) 基礎的知識を習得する段階、3) 造園学の最大の特徴である各専門分野を連繋して統合する段階、4) 専門分野、総合化した分野に関わらず、修得した内容を展開、深化する段階、に分けて設定している。

2-3. 専門分野と専門家育成のシナリオ

本学科のカリキュラムを構成する分野は前述したとおりの3分野であり、それは社会で活躍する造園家や造園技術者などの職能や職域と対応できるよう意図的に設定している。「環境計画・設計分野」、「ランドスケープ資源・植物分野」、「景観建設・技術分野」の3つの分野を基礎として、それぞれの職能領域に連動できる履修モデルを設定している。なお、必修科目は3分野に共通して横断し、選択科目は分野特性に対応して選択できる内容としてモデル化している。